

今年も開催！

「ゴミ拾いはスポーツだ！」の掛け声とともに腕を突き上げる参加者

大会には弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科の学生がスタッフとして参加した

弘前大会

スポーツGOMI 大会とは?

今和3年1月2日(土) 弘前市立 観光館前の追手門広場にて、「ゴミ拾いはスポーツだ」という掛け声とともに「スポGOMI」大会が弘前が今年も開催された。本大会は、年齢や性別に関係なく環境問題について関心を持つてもらいたいという趣旨により、全国各地で行われている。弘前市では、昨年に引き続き2回目の開催となつた。

この大会は、3～5人でチームを組み、1時間という制限時間内で指定された範囲内のゴミ拾いをするものであり、その種類と重さをポイントに換算して競い合う。ゴミは、燃やせるごみ・燃やせないごみ・かんびん・ペットボトル・たばこの吸い殻に分別された。昨年から参加者が大幅に増え、24チーム計99名が参加したことから、拾われたゴミの量も総重量26.61kgと、前回を約12kg程上回った。比較的ゴミが少ないと言われている弘前市でも、これだけ多くのゴミが拾い集められた。

～主催～
弘前市環境課
スponetト弘前
～取材～
第一生命株式会社
岩間由美様
村上秀子様

主催者の想い

本大会を主催した弘前市環境課の三上有沙さんは、「ゴミを捨てない市民が増えてしまい」と願っている。また、今回から共催したスポーツト弘前の鹿内葵さんは、「単発で終わる大会にはしたくない取組を「SDG(持続可能な開発のための教育)に繋げたい」と話す。

ゴミを拾うだけではない

今回初めて大会に参加した岩間由美さんは、「この大会は、子供たちにとつて勉強になるイベントもある。ゴミを拾うことはもちろん、挨拶や会話を通じて地域の方と一緒に学ぶ道德の要素も含んでいるのではないか」と話す。また今回2度目の参加で普段から上秀子さんは、「ゴミ拾いをしているときに地域の方から声をかけてもらえることが気持ち良い」と話す。

編集後記

私自身もこの大会にスタッフとして参加し、チームに同行した。子供から大人まで楽しんで取り組んでいる様子が窺えた。しかしながら、地域によってゴミの種類や量に大きな違いがあった。この大会のゴールは大会が無くなること。ゴミを平気でポイ捨てする人の心に届いてほしい。

豪華景品も！



全国でスポGOM大会を運営する日本スポGOM連盟はSDGsの目標¹⁴(海の豊かさを守ろう)の達成を掲げている。さらに、この大会がこの世か